



2020年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年1月14日

上場会社名 株式会社プレナス

上場取引所 東

コード番号 9945

URL <https://www.plenus.co.jp/>

代表者（役職名）代表取締役社長 社長執行役員（氏名）塩井 辰男

問合せ先責任者（役職名）IR室長（氏名）藤波 俊行 TEL 03(6892)0304

四半期報告書提出予定日 2020年1月14日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2020年2月期第3四半期の連結業績（2019年3月1日～2019年11月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年2月期第3四半期	112,786	△2.4	167	—	615	27.4	△949	—
2019年2月期第3四半期	115,609	5.6	△147	—	483	△89.6	△416	—

（注）包括利益 2020年2月期第3四半期 △948百万円（－％） 2019年2月期第3四半期 △480百万円（－％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年2月期第3四半期	△24.78	—
2019年2月期第3四半期	△10.88	—

（注）潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年2月期第3四半期	86,676	57,405	65.4
2019年2月期	87,387	60,623	68.6

（参考）自己資本 2020年2月期第3四半期 56,652百万円 2019年2月期 59,923百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年2月期	—	30.00	—	30.00	60.00
2020年2月期	—	30.00	—	—	—
2020年2月期(予想)	—	—	—	30.00	60.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年2月期の連結業績予想（2019年3月1日～2020年2月29日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	153,310	△0.4	650	—	1,070	647.2	△830	—	△21.68

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
 (注)詳細は、添付資料P. 9 「(3)四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2020年2月期3Q	44,392,680株	2019年2月期	44,392,680株
② 期末自己株式数	2020年2月期3Q	6,064,309株	2019年2月期	6,103,709株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2020年2月期3Q	38,314,474株	2019年2月期3Q	38,288,972株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

※ 四半期決算補足説明資料の入手方法について

- 四半期決算補足説明資料は、2020年1月14日(火)に当社ホームページのIR情報に掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 連結経営成績に関する説明	P. 2
(2) 連結財政状態に関する説明	P. 4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	P. 7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	P. 8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 9
(継続企業の前提に関する注記)	P. 9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	P. 9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	P. 9
(追加情報)	P. 9
(セグメント情報等)	P. 10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米中貿易摩擦の激化や海外経済の減速傾向から輸出を中心に弱さが続いているものの、緩やかな回復基調が続きました。当外食産業におきましては、原材料価格や物流費、人手不足にともなう人件費の上昇に加え、大型台風の上陸による天候不順の影響や、消費税率の引き上げによる消費マインドの変化など、引き続き厳しい事業環境が続きました。

このような状況の中、当社グループにおきましては、お客様の満足度向上に努めるべく、商品力や店舗販売力の強化を目指すと共に、中長期での安定的な成長を見据え、FC化の推進や海外事業の強化と同時に、当社グループ工場の活用による内製化の推進によって、さらなる事業基盤の強化に注力しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、1,127億86百万円(前年同期比2.4%減)、営業利益は1億67百万円(前年同期は、営業損失1億47百万円)、経常利益は6億15百万円(前年同期比27.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純損失は9億49百万円(前年同期は、親会社株主に帰属する四半期純損失4億16百万円)となりました。売上高につきましては、既存店売上高が前年同期実績を下回ったことが主な要因で前年同期実績を下回りました。利益面につきましては、前年より実施してきた商品力強化による原価率の上昇等があったものの、効率的なプロモーション展開や店舗諸経費の改善等によって営業利益及び経常利益は前年同期実績を上回りました。また、親会社株主に帰属する四半期純損失につきましては、9月以降に退店したほっともっと直営店舗の固定資産に係る減損損失を計上したことによるものです。

[国内における店舗展開の状況]

	前連結会計 年度末	新規出店	退店	当第3四半期 連結累計期間末	改装・移転
ほっともっと	2,748店	7店	223店	2,532店	71店
やよい軒	377店	7店	1店	383店	5店
MKレストラン	36店	2店	2店	36店	6店
合計	3,161店	16店	226店	2,951店	82店

[海外における店舗展開の状況]

	展開エリア	前連結会計 年度末	新規出店	退店	当第3四半期 連結累計期間末
ほっともっと	中国	2店	1店	—	3店
	韓国	15店	2店	7店	10店
	オーストラリア	1店	—	1店	—
	シンガポール	—	1店	—	1店
やよい軒	タイ	187店	12店	3店	196店
	シンガポール	8店	1店	—	9店
	オーストラリア	4店	1店	—	5店
	台湾	18店	2店	—	20店
	アメリカ	3店	—	—	3店
	フィリピン	3店	2店	—	5店
	マレーシア	1店	1店	—	2店
合計	—	242店	23店	11店	254店

セグメントの経営成績は次のとおりであります。

なお、当第3四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であった(株)フーディフレーバーを消滅会社、同じく当社の連結子会社である宮島醤油フレーバー(株)を存続会社とする吸収合併により、事業セグメントの利益又は損失の区分の変更を行っております。以下の前年同期比較については、変更後の区分に基づき算出した前年同期の数値を用いて比較しております。

【ほっともっと事業】

持ち帰り弁当のトップブランドとして、おいしいごはんにこだわり、厳選した高品質の国産米を使用し、店内調理によるできたてのお弁当を提供することを基本に、商品の品質向上やボリュームアップなど、付加価値の高い商品によってお客様満足度の向上を目指しました。当社グループ工場で製造し美味しさと品質にこだわったロースかつを使用した『かつ丼フェア』の実施や、えび3尾とイカ、白身魚の3種の海の幸と2種の野菜の天ぷらを盛り付けた『海鮮えび天井』を販売するなど、付加価値を高めた商品でのプロモーション展開や店舗販売力の強化で、お客様の更なる満足度向上に注力しました。また、FC化の推進や、当社グループ店舗で使用される商材の内製化の推進に取り組みしました。

以上の結果、売上高は798億69百万円(前年同期比3.5%減)、営業損失は43百万円(前年同期は、営業損失6億65百万円)となりました。売上高につきましては、既存店売上高の減少(前年同期比1.5%減)が主要因で、前年同期実績を下回りました。営業損失につきましては、前年に実施した商品力強化による原価率の上昇等があったものの、効率的なプロモーション展開や店舗諸経費の改善等によって前年同期実績から赤字幅が縮小しました。

【やよい軒事業】

素材や手作り感にこだわった定食メニューをお手頃な価格で提供することを基本に、揚げた鶏もも肉に濃厚な香味ダレをたっぷりかけた『やみつき油淋鶏定食』の販売や、『すき焼き定食牛肉増量キャンペーン』を実施するなど、当社グループ工場で製造した商品を活かした定食を提供することで、引き続きお客様の幅広いニーズへの対応を図りました。また、「ユニットFC制度」を利用して新規オーナーの獲得を積極的に行うなど、FC化の推進に取り組みしました。

以上の結果、売上高は231億円(前年同期比0.6%減)、営業利益は8億55百万円(前年同期比11.1%減)となりました。売上高につきましては、既存店売上高の減少(前年同期比3.2%減)が要因で、前年同期実績を下回りました。営業利益につきましては、店舗諸経費の改善があったものの、既存店売上高の減少や原価率の上昇等によって前年同期実績を下回りました。

【MKレストラン事業】

豊富な具材と個性豊かなスープが選べるしゃぶしゃぶに、季節限定の『もつ鍋用味噌スープ』や特選具材を取り揃えるなど、商品力の強化に努めました。また、「タイフェスティバル」等のキャンペーンの実施や、九州エリアのメニューのリニューアルを行うなど、売上の拡大や店舗収益の向上に努めました。

以上の結果、売上高は24億72百万円(前年同期比4.4%減)、営業損失は2億65百万円(前年同期は、営業損失17百万円)となりました。売上高につきましては、既存店売上高の減少(前年同期比6.7%減)により、前年同期実績を下回りました。利益面につきましては、リブランディングやキャンペーンに伴う販売促進費や、人件費の増加等によって、前年同期実績を下回りました。

【海外事業】

海外事業につきましては、マーケットに応じた売上向上施策の実行、食材の現地化による店舗原価低減、出店の推進等により、事業の黒字化を目指しました。

以上の結果、売上高は30億22百万円(前年同期比4.9%増)、営業損失は4億30百万円(前年同期は、営業損失3億72百万円)となりました。

【その他】

宮島醤油フレーバー(株)は、調味料・加工食品のOEM(相手先ブランド名製造)を主な事業としており、既存顧客への新商品提案を積極的に行うと共に、新規顧客獲得のための営業活動を実施しました。また、当社グループ店舗で使用される調味料等の開発も行っており、商品数の拡大にも注力しました。

以上の結果、売上高は43億20百万円(前年同期比3.9%増)となりました。利益面につきましては、のれん代の償却があったものの、生産量が増加したことによって、結果としては営業利益89百万円(前年同期は、営業損失14百万円)となりました。なお、宮島醤油フレーバー(株)は、10月1日に連結子会社の(株)フーディフレーバーを吸収合併しております。

(2) 連結財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ7億11百万円減少し、866億76百万円となりました。内訳は、流動資産23億30百万円の増加、固定資産30億41百万円の減少であります。流動資産の増加は、現金及び預金11億64百万円の増加、受取手形及び売掛金4億94百万円の増加、商品及び製品8億47百万円の増加などによるものです。また、固定資産の減少は、有形固定資産30億60百万円の減少などによるものです。有形固定資産の減少は、減損損失10億69百万円などによるものです。

負債は、前連結会計年度末に比べ25億6百万円増加し、292億70百万円となりました。内訳は、流動負債29億15百万円の増加、固定負債4億9百万円の減少であります。流動負債の増加は、支払手形及び買掛金8億80百万円の増加、未払消費税等11億55百万円の増加、預り金3億19百万円の増加、固定負債からの振替による資産除去債務1億94百万円の増加などによるものです。固定負債の減少は、流動負債への振替による資産除去債務3億22百万円の減少などによるものです。

純資産は、前連結会計年度末に比べ32億17百万円減少し、574億5百万円となりました。内訳は、利益剰余金32億47百万円の減少などであります。利益剰余金の減少は、親会社株主に帰属する四半期純損失9億49百万円、配当支払による22億98百万円の減少によるものです。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前連結会計年度末の数値で比較を行っております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年2月期の業績予想につきましては、2019年8月9日の「退店に伴う資産除去債務の追加計上および業績予想の修正に関するお知らせ」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,447	8,612
受取手形及び売掛金	2,377	2,872
商品及び製品	5,368	6,215
原材料及び貯蔵品	163	209
その他	2,805	2,692
貸倒引当金	△303	△413
流動資産合計	17,859	20,189
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	35,381	33,179
その他(純額)	14,797	13,938
有形固定資産合計	50,179	47,118
無形固定資産		
のれん	1,086	946
その他	1,834	2,055
無形固定資産合計	2,921	3,002
投資その他の資産		
その他	16,458	16,395
貸倒引当金	△31	△30
投資その他の資産合計	16,426	16,365
固定資産合計	69,527	66,486
資産合計	87,387	86,676
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,229	7,110
短期借入金	317	357
未払法人税等	545	147
賞与引当金	335	109
ポイント引当金	186	242
株主優待引当金	162	29
資産除去債務	22	216
その他	8,763	11,264
流動負債合計	16,562	19,478
固定負債		
長期借入金	1,299	1,287
退職給付に係る負債	81	91
資産除去債務	5,671	5,348
その他	3,148	3,064
固定負債合計	10,201	9,792
負債合計	26,763	29,270

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,461	3,461
資本剰余金	4,777	4,724
利益剰余金	63,537	60,289
自己株式	△11,897	△11,820
株主資本合計	59,878	56,654
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	22	△8
為替換算調整勘定	22	6
その他の包括利益累計額合計	44	△1
新株予約権	266	236
非支配株主持分	433	517
純資産合計	60,623	57,405
負債純資産合計	87,387	86,676

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)
売上高	115,609	112,786
売上原価	56,868	56,127
売上総利益	58,740	56,658
販売費及び一般管理費	58,888	56,490
営業利益又は営業損失(△)	△147	167
営業外収益		
受取利息	25	22
受取配当金	3	2
固定資産賃貸料	102	102
受取補償金	42	70
持分法による投資利益	55	2
受取保険金	246	153
その他	215	283
営業外収益合計	690	636
営業外費用		
固定資産賃貸費用	6	5
為替差損	—	67
貸倒引当金繰入額	4	6
その他	49	109
営業外費用合計	59	189
経常利益	483	615
特別利益		
固定資産売却益	36	0
補助金収入	—	109
特別利益合計	36	110
特別損失		
固定資産処分損	315	252
減損損失	73	1,069
固定資産圧縮損	—	100
その他	90	1
特別損失合計	480	1,423
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	39	△697
法人税等	438	201
四半期純損失(△)	△399	△898
非支配株主に帰属する四半期純利益	17	50
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△416	△949

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年11月30日)
四半期純損失(△)	△399	△898
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△20	△30
為替換算調整勘定	△55	33
持分法適用会社に対する持分相当額	△5	△52
その他の包括利益合計	△80	△49
四半期包括利益	△480	△948
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△498	△996
非支配株主に係る四半期包括利益	18	48

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間において、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

当第3四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であった(株)フーディフレーバーは、当社の連結子会社である宮島醤油フレーバー(株)を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年3月1日至2018年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	ほっと もっと 事業	やよい軒 事業	MK レストラン 事業	海外事業	計			
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高 (その他営業収入を含む)	82,756	23,229	2,585	2,881	111,452	4,157	—	115,609
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	1,159	△1,159	—
計	82,756	23,229	2,585	2,881	111,452	5,316	△1,159	115,609
セグメント利益又は損失(△)	△665	962	△17	△372	△93	△14	△39	△147

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社1社分であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

II 当第3四半期連結累計期間(自2019年3月1日至2019年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	ほっと もっと 事業	やよい軒 事業	MK レストラン 事業	海外事業	計			
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高 (その他営業収入を含む)	79,869	23,100	2,472	3,022	108,465	4,320	—	112,786
(2) セグメント間の内部売上 高又は振替高	—	—	—	—	—	1,444	△1,444	—
計	79,869	23,100	2,472	3,022	108,465	5,765	△1,444	112,786
セグメント利益又は損失(△)	△43	855	△265	△430	116	89	△38	167

(注)1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、連結子会社1社分であります。

2 セグメント利益又は損失の調整額は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ほっともっと事業」セグメント及び「MKレストラン事業」セグメントにおいて、退店を予定している店舗資産について減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においてはそれぞれ955百万円及び113百万円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第3四半期連結会計期間において、当社の連結子会社であった(株)フーディフレーバーを消滅会社、同じく当社の連結子会社である宮島醤油フレーバー(株)を存続会社とする吸収合併をしたことにより、管理区分の見直しを行っております。これに伴い、従来「ほっともっと事業」及び「やよい軒事業」として区分しておりました財務情報は、「その他」に含めております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分に基づき作成しております。